

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	<p>現中島小に仮移転する際、児童は入りきれぬのか？また、各種の学校行事の際に、旧大和町地区の保護者が現中島小に集まることになるが、保護者の駐車場等の確保まで考慮しての計画か？</p> <p>運動会では、保護者のほかの家族等も集まるので、対応が必要になるだろうと思う。保護者としては、行事の充実に協力していきたい。</p>	<p>(学校教育課長)現中島小で部屋数としては足りている。移転にあたっては、多目的室等を普通教室に改修し、エアコンを入れるなどの手直しを行う必要がある。現大和中への移転までの仮移転なので、現中島小の増築は考えていない。また、行事の開催について、保護者の数が異なってくることは承知している。新設校ごとに、運動会や授業参観などの学校行事の開催方法等を検討し対応したい。</p> <p>(主任指導主事)学校行事について補足。昔の中島小では、児童数が多い中でも学校行事の充実を図るため、4ブロックに分けて開催するなどの対応をとっていた。学校規模が大きくなれば、教職員もそれに比例して増え、学力向上に繋がる。新設校でも、ブロックに分けて開催をずらすなど、行事の開催方法を工夫し対応していきたい。ただ、現中島小周辺は駐車場となる場所が確保しづらい環境なので、そこはきちんと検討していきたい。</p>
2	<p>再編計画とは直接関係無いが、子どもに関する事なので。雲龍公園の遊具が老朽化しているため対応をお願いしたい。</p> <p>10年前に学校再編が話し合われた時は、「小規模化は良いことだ」という見解であり、私もそう思っていた。今回、学校の小規模化は良くないと、再編を推進しようとしているが、考え方が変わったのはなぜか？</p> <p>家と学校の距離がどの程度離れていればスクールバスに乗れるのか。通学路の信号が短いなどの問題がある。</p> <p>学校再編によって、当地区の過疎化が進まないよう、教育を充実させて、今の地区から出て行かないようにして欲しい。スクールバスについては、新たに大型バス等を購入するのではなく、現在、地域を回っている市のコミュニティバスを利用するなどして費用削減を図るべきである。</p>	<p>所管課に伝える。</p> <p>(学校教育課長)10年前のH24年と現在の方針が変わった理由についてであるが、確かにH24年当時にも、ある程度少子化は予想していたが、当時の適正規模・適正配置化検討委員会の答申では「再編は時期尚早」とのことだった。教育委員会としては、当時の答申を尊重したものの、その後、予想より早いスピードで少子化が進み、このままでは市内の複数の学校が成り立たなくなるという理由から、再度、検討委員会に諮問したところ、「再編が望ましい」という結果となった。</p> <p>(主任指導主事)小規模の方が教育上良いというお話があったが、学校の小規模化が進み、複式学級となった場合には、異なる学年を1人の担任で見ることになり、一方の学年の授業を行っている間、もう一方の学年は自学をする状況となる。子どもたちに充実した教育を受けさせるためには、ある程度の規模の学校が必要であると考えている。</p> <p>バス通学の対象や乗降場所等は今後再編協議会(仮称)で検討する予定である。また、概ね2km超という目安はあるが、地域の特性に応じて、新設校ごとに保護者等関係者の協議が必要だと考えている。</p> <p>通学方法については、今後再編協議会(仮称)で話し合う。ご提案のコミュニティバスを利用する方法は、スクールバスとのルート重複やコミュニティバスの定員、空き車両の状況等を考慮し、公共交通機関等を利用する場合に、その運賃を補助する方法等も含めて検討していく。</p>
3	<p>再編後、学校生活が残り少ない場合でも、制服や体操服等を新しく買う必要があるか。</p>	<p>再編協議会(仮称)にて、例えば、制服を廃止するか、以前の制服を継続して着用して良いかなどを話し合うことになる。また、中学校では、ジェンダーに配慮した標準服の導入も今後検討していきたい。可能な限り保護者の負担にならないようにと考えている。</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
4	<p>先程から話に出ている答申(「望ましい規模」「概ね2km」等の基準)はどこの見解か？また、再編の期間を10年としているのはなぜか？</p> <p>もし今回再編を行わず見送った場合は、また10年後に再検討するということになるのか？</p> <p>最終的な計画の決定は、どのように行われるのか？</p>	<p>答申とは、「柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会」で審議された結論で、今回の説明している文言も答申が元になっている。例えば、望ましい学校規模は、さらに文科省の基準が元になっている。また、計画期間の10年というのは、この答申で示された、あくまで目標期間。検討委員会では、個別の再編案は審議せず、市全体の適正化事業を10年で完了するようにと区切った。今回、市内全ての小中学校を再編する計画案をたてたので、10年間で完了するようにスケジュールを作成したところ、個別の期間が厳しいものになっている。今後、新設校ごとに再編を進める中で、さらに協議の時間が必要な場合には、拙速に進めるのではなく、十分に時間をかけて検討・協議した上で進めていきたい。</p> <p>再編を見送った場合とのご質問だが、今後の児童生徒数の減少傾向を見るに、現在の学校再編計画自体を白紙にすることはできないと考えている。未来の子どもの教育のためには、クラス替えができる学校規模がふさわしく、先生も多く配置できるようになる。</p> <p>全ての地域説明会が終了した後、市の公式サイトや市役所各庁舎、公民館等で計画案を公表し、市民からの意見を募集するパブリックコメントを行う。また、今回の説明会やパブリックコメントで寄せられたご意見と回答は、市の公式サイト等で公表する。その後、最終的な計画を策定し、議会等への報告を経て、教育委員会で決定する予定である。</p>
5	再編協議会の規模は？保護者の意見がどれくらい反映するのか？他の校区等の事例があれば教えて欲しい。	再編協議会(仮称)の規模に関しては、単純に比較できないため、あくまで参考として、みやま市の場合は、統合校を構成する小学校の①保護者②学校③地域関係者から3名ずつが選出されて協議会が組織されたとのこと。さらに、協議会は、校名を検討する部会、制服に関する部会、通学方法を検討する部会等に分かれて、それぞれの詳しい協議を行うことになると考えている。
6	<p>再編協議の期間が、新設校によって2年、もしくは3年となっているが、期間の違いは何によるものか？また、協議会で決める内容が多いが、1年半の短期間で、新設校に関わる全ての協議を決めることができるのか？</p> <p>スケジュールがずれるかもしれないことは分かっていたが、子どもにとって学校が合併するかは、様々な面で大きな違いなので、そこも考慮して欲しい。</p>	仰るとおり、各新設校の協議期間は非常にタイトなスケジュールとなっている。その中で、義務教育学校は、隣接した小中学校の校舎が使えるため、比較的スムーズに協議が進むのではないかと考え、期間を2年にしている。また、(仮称)大和小は複式学級になる学校があるので、一番最初に協議に入るスケジュールにしている。ただ、全ての段階で言えることだが、なかなか意見統一ができない場合は、予定を後ろ倒しにすることも止むを得ないと考えている。
7	<p>学区を引っ越そうと検討する人もいるのでは？複式学級発生の恐れがある学校や場所の近い学校3校ずつなどで統合するなどできないか？</p> <p>また、3校ずつが可能に関わらず、スクールバスは旧小学校かコミュニティセンターに来るようにして欲しい。</p>	<p>児童数の推移を見るに、現在の旧大和町地区の6校合併でやっと3クラス編成となり、それでも、6年後には2クラスしかない学年がある。さらに、その後も児童数は減り続けると推計されている。例えば3校ずつとなれば、最初から適正な学校規模に満たないことから、学校再編の効果は薄く、今回6校統合の計画を作成している。ご理解をお願いしたい。</p> <p>スクールバスについては、再編協議会(仮称)の中で保護者の皆様の意見を聞いて、安全が確保できる乗降場所を検討していく</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
7 続き	なぜ1学年3クラス編成にこだわるのか？教職員数をカットすることによる費用削減を狙っているのか？	1学年3クラスであるというより、再編後の学校が適正規模であることにこだわっている。教職員については、県で配当しているため、教職員数の違いは市町村の財政にはあまり影響しない。ただし、配置される先生の数は基準が決まっており、小学校の場合、基本的には教頭、教務と1学級1人の担任という組み合わせである。これが複式学級がある場合、教頭もしくは教務が置けない上に、複式学級は2学年に1人の担任ということになる。これが、例えば1学年3クラス編成になれば、教頭と教務が専任化し単独で置ける上に、加配の先生が確保できる可能性が高まる。その場合、1つのクラスを習熟度別に分けて2人の先生で教える、あるいは専科という形で、例えば英語専門の教員を追加で手配することも可能になる。十分な児童数や学級数が確保されることで、子どもたちのより良い教育環境が実現できるため、できる限り適正な学校規模を確保したいと考えている。